

～絵画・作文コンクール「作文の部」市長賞作品～  
『私のまわりのエコじまん！！』

大阪市立瓜破小学校

6年 松村 帆夏さん

私の町には、平野工場があります。私が四年生の時には平野工場に、社会見学に行かせていただきました。私の部屋からは、平野工場が見えますが、中で何をしているのかわからなかったのです。ずっとワクワクしていました。工場に行くと、ゴミを溜める場所にいっぱいゴミが溜まっていて、もっと自分が出すゴミの量を減らそうと思いました。そして、その後日にはパッカー車に乗って、工場の乗務員さんがゴミの分別の仕方や、私達の質問に答えていただいたりしました。その事は、今でも脳裏に焼きついています。四年生から六年生の間でも、ずっとその日の事を忘れずに、分別などをがんばっています。

そして、私の学校でもエコな事をしています。それは、使った紙はそのまま捨てずに、裏などを使って計算用紙にしたりしている事です。正直、「えーちょっと、めんどくさいなあ」とも思っています。でも、それをする事によって、紙をあまり使わなくなり、使う紙を減らしました。その、計算用紙などにした紙もゴミ箱にそのまま捨てられるより、何かで使われた方が嬉しいと思います。広告の裏の白い所も使えるし、もっともっと、エコできると思います。これが私のまわりの2つ目のエコじまんです。

3つ目のエコじまは私の近所では、いらなくなった物などを皆で交かんしあっているという所です。これは私の近所だけかもしれませんが、サイズをまちがえて買ってしまったくつ下や、もう着ないし、小さくなってしまったズボンなどを交かんしあったりしています。私の近所は、皆とても仲良しです。私はこの前、となりの女の子にもう古いマンガや、雑誌をあげました。それからは毎月、新しい号が発売されるたびに、となりの子にあげています。一回、その子のお母さんに、「もう私達が自分で買うからいいよ！！悪いし…」と言われました。でも、その子達が買ったら、ムダづかいになるんじゃない？私のだったら一さつですむし、タダなのに。と思ってその思いを、その子のお母さんに伝えました。そして、お母さんを説得してあげていました。そのマンガのふろくでほしい物があつたら、何でもあげる。と言ったらじゃあコレちょうだいと言ってくれました。私はふろくにはあまり興味がないし、いつも捨てていたのでリサイクルになったのかな？と思って少し嬉しくなりました。

ちなみに、私の家ではグリーンカーテンをしています。ゴーヤの葉などで作っていますが、たまに風であおられる事があります。そういうときは、グリーンカーテンを固定します。そして、家の庭に植えたヒマワリの種はとれる量が多すぎるので近所の人たちや、友達に配ったりします。それでも余った種は、鳥などのエサにしてあげます。これも私はエコだと思います。

そして私の家でもう1個やっている事は、大和川でバッタなどの虫をとってきて、庭に放す事です。弟はそれで楽しそうに遊んでいます。

グリーンカーテンも夏の間だけだし、かれてしまうので、かれたら庭にあなをほつて、かれた葉などを入れて土の養分にしたりします。その方がゴミ収集車で持ってってもらわなくても自分でできるし、それに肥料を買うお金もいらなくなります。だから家では、かれた葉や、もうしゅうかくした野菜の葉などを皆で協力して入れています。

私のまわりにはエコが本当に、たっくさんあります。一人ができる事をやっていたら大きな資源をエコする事ができます。だからこれからもエコをしようと、思います。

※ 原文のまま掲載しています。学校名・学年は受賞当時

～絵画・作文コンクール「作文の部」局長賞作品～  
「ごみのへんしん」

大阪市立大隅西小学校

1年 池上 絢悠さん

「そのごみばこじゃないでしょ。」  
おかあさんのこえがしました。ぼくが、のみおわったジュースのペットボトルをすてようとしたときのことでした。  
「あっ、このごみはいちばんしたのごみばこだった。」  
あわてていますてたペットボトルをまんなかのごみばこからひろい、いちばんしたのごみばこにすてなおしました。  
「ぼくは、まんなかのごみばこのほうがすてやすいよ。三つもごみばこがあるんだからまんなかはぼくのごみばこにしてよ。」  
とおかあさんにたのんでみました。すると、  
「三つごみばこがあるのは、ごみをぶんべつするためよ。」  
といわれました。そこではじめてぼくは、「ぶんべつ」ということばをしりました。「ぶんべつ」とは、ごみをわけてあつめることだそうです。  
「なんのためにごみをぶんべつするの。」  
ときくと、おとうさんが、  
「しらべてみようか。」  
といい、かみしんじょうにあるとうほくかんきょうじぎょうセンターへいくことになりました。かんきょうじぎょうセンターにつくと、さっそくみどりのカーテンがぼくたちをむかえてくれました。なかにはいるとおじさんが、われたけいこうとうをはこんでいました。ぼくが、  
「ごみについておしえてほしいです。」  
というとなかにいれてくれました。  
「ごみはなぜぶんべつするのですか。」  
ときくと、  
「ごみをわけてそれぞれリサイクルするためだよ。」  
とおしえてくれました。  
「リサイクルってなんですか。」  
ときくと、  
「ごみをもういちどあたらしいものにふっかつさせてつかうことだよ。」  
とおじさんがいいました。それをきいてぼくはびっくりしました。ごみがもういちどつかえるなんてしんじられませんが、かみやびんはもういちどかしてまたしんぴんのかみやびんになるそうです。いちばんおどろいたリサイクルはペットボトルからなんとふくのせんいがつくれるということです。おじさんは、  
「ごみはぶんべつしてくれたらいろいろなものにへんしんして、もういちどつかえるから、ぜひぼくもごみをぶんべつしてね。」  
といいました。  
「かならずぶんべつします。」  
ぼくはやくそくしていえにかえりました。  
いえにかえっておかあさんに、  
「ごみばこが三つあるわけがわかったよ。」  
というと、おかあさんが、  
「これからは、ごみをぶんべつしていこうね。」  
といいました。  
つぎのひぼくはちょうないのなつまつりにいきました。だいすきなやきそばとかきごうりを買ってもらいました。おなかいっぱいになりごみをすてにいくと、ごみばこが三つならんでいました。ぼくは、  
「おかあさん、ごみがぶんべつしてあるよ。」  
とおもわずさげんでしまいました。ぼくがきづかなかっただけで、みんなごみをぶんべつしようとしていたのです。おまつりのあいだになんかいもほうそうでごみのぶんべつをよびかけていました。ぼくはなんだかうれしくなりました。  
ぼくは、ごみのぶんべつをまなんでから、まいにちおかしのごみをぶんべつしています。ごみとおもっているものは、ぶんべつしたとたんごみじゃなくなっていくがします。これからもごみをぶんべつして、ごみをへんしんさせてふっかつさせたいです。

※ 原文のまま掲載しています。学校名・学年は受賞当時

～絵画・作文コンクール「作文の部」教育長賞作品～  
「ぼくのエコな町」

大阪市立常盤小学校  
3年 坂田 政紀さん

ぼくの住んでいる町のじまは、町の間関係が豊かで、町がとてもきれいなことです。

その中でも一番のじまは、ぼくの学校で毎年運動会が終わったところに行っている地いきふれあいせいそうです。地いきふれあいせいそうは、共に自分の住む町のせいそうを行うことを通して、児童、ほご者、地いきの人びととのふれあいを深めると共に、地いきを愛する心を育むことが目的だそうです。ですから、地いきふれあいせいそうには、小学校の児童や先生たちだけでなく、連合町内会の人やPTAの人、ほご者もたくさん参加します。

地いきふれあいせいそうは、クラスごとにわりあてられた地いきをそうじします。ゴミを各自が手でひろって自分のふくろにいれます。ほご者も、先生たちが分けた地いきのそうじに参加します。ほご者の人の中にはそうじ道具を持ってきてくれる人もいます。そして、そのそうじ道具でそうじをしてくれたり、かしてくれたりします。最後に、全員分のゴミを大きなふくろに集め、学校に持ってかえります。

せいそうが終わると、町はすごくきれいになります。そして、ぼくも町にゴミをおとさないようにしようと思います。地いきふれあいせいそうをすると、参加した人は、町をきれいにしておきたいと思うので、ふだんから、ゴミをおとさない方がよいとわかります。なので、ぼくのまわりでは、子供も大人も町にゴミをおとすような人はいません。地いきふれあいせいそうは、地いき全体の町をきれいにするという意識を高めると共に、地いきだけではなくかん境について改めて考える心を育てるいい機会になっています。

ぼくの町では、地いきふれあいせいそうとは別に、近くの幼稚園の子供達と町内会の人と一緒に地いきの公園のせいそうをしています。町内会のせいそうの日もあります。学校の登下校を見守ってくれている町内会やPTAの人が、ついでにゴミをひろっている姿も見ます。近くのせんもん学校の方は、ほぼ毎日、自分たちの学校のまわりをそうじしてくれています。

そうじ以外にも、ぼくの学校や地いきでは、色々なエコを行っています。ぼくの学校では、ペットボトルのふたの回収をしています。また、近くの中学校の給食に出る牛乳パックをもらってきて、児童やほご者が洗って開いています。町内会では、紙ゴミ、ダンボール、布などを分別して集めているので、町内の方はたくさん協力しています。町内のゆうびん局でも、ペットボトルのふたを回収しているので、学校には来ないお年寄りの方々が、ゆうびん局に行くついでに、ふたを入れているのを見かけます。

ぼくは、何かを節約したりするだけではなく、地いきや社会全体の人間関係がとてもよくて、住んでいる人が豊かな心を持っていて、自分の町や地球にやさしくできることもエコだと思います。住んでいる人の人間関係が豊かで、きれいなこの町が、ぼくは大好きで、じまに思っています。いつまでもこのような町であつたらいいと思います。

※ 原文のまま掲載しています。学校名・学年は受賞当時